



中嶋 嶺雄

「血の日曜日」として永遠に歴史に刻まれるべき去る六月三日の深夜以来、北京は、

「血の日曜日」として永遠に歴史に刻まれるべき去る六月三日の深夜以来、北京は、

# 中国の悲劇とその深層

## 人民の波恐れた人民の政府 近代的法治求める知識革命

そして中国全土はまさに風雲急を告げる事態にたっている。まったく無抵抗・非暴力の

「平和的請願」に徹していた書長兼国家主席(李鵬(首相)ラインの強硬派指導者

側)に立ち上り、強権支配が「人民の波」に

# 文化



長宗 希佳・画

「いかに」(戒厳部隊司令官および市民が建国以来初めて発表)など黒白を転倒して、われわれ中国人のように

# 青梅雨



成瀬 櫻

な梅雨が、日本人の性格や文芸に深い影響を及ぼしているのは周知の通りだ。

ところで一九四五年(昭和二十年)の梅雨は私にとって忘れ難い。それは青梅雨ではなく蒼梅雨というのがふさわしい。度重なる米軍の空襲で

時代であった。せめて明るく話といえは、駅のホームで愛国婦人会や女学生たちによって弁当とお茶

戦争が終わってK子の消息をたずねた。H市は終戦直前の空襲で丸焼けだった。足を棒にしてやっとK子の兄に会った。しかしK子は海軍病院が空襲を受けたとき戦死したことを、つぶやくように告げられた。

いまも私の心の底には、夾竹桃の鮮烈な赤い花が梅雨に濡れてうなだれている。

き)しており、どこに火をつけても燃え上がるような状況があるだけに、建国四十周年にして初めて起こったほんものの悔力批判、ほんもの大衆運動の広がりを前に、情況

はまさに中華人民共和国解体の局面につながってゆく可能性がある。最後に、日本人として私たちが、この中国の悲劇を座標

の流るるに、たが井心亭。13日は作家大宰治の祥月命日、太宰をほじめ山崎富栄ら太宰をとり巻いた女性たちをしのぶ。出席者は自白の花を一本持参。

たか井心亭。13日は作家大宰治の祥月命日、太宰をほじめ山崎富栄ら太宰をとり巻いた女性たちをしのぶ。出席者は自白の花を一本持参。

### 建国以来初の 鋭い政治意識 不満や苛立ち

そのもと、今回の民主化要求は、たとえ憲法規約にはいかなる指導者であって

も、個人が独断専行したり、銃撃されたという報道、超衆個人を組織の上に君臨させた

樹立したとの情報まで入り込み、今日中国に

大、共産党幹部の特権の行使、都市への流民の突出など

「法治」という要求をかけた中国の学生、知識人、満や苛立ちが鬱積(うつせ

# 世は

三浦朱門

## 政治資金

リクルート事件の捜査の終結とともに、新聞では織

つたこと自体、いかにわしい。巨万の富をタダで寄付するはずがない。必ずや見返りを期待してのことだ。

家が信頼できないのなら、政治資金の有効な規制も期待できない。やがてお中元が来るが、その時になるとパートは

「美しい日本の伝統」と関連するところがある。美しさは民は色々の思いでお中元をいだきつつか。(作家)